

The page features four large, solid blue triangles positioned at the corners, pointing towards the center. The top-left triangle points down-right, the top-right points down-left, the bottom-left points up-right, and the bottom-right points up-left. These triangles frame a central white area.

6

まとめ

まとめ

「1人1人にストーリーがある」



武蔵野大学 人間科学部 社会福祉学科
教授 渡辺 裕一

報告書を隅から隅まで読んでいただければわかる通り、地域福祉コーディネーターの仕事の内容は多岐に渡ります。地域福祉コーディネーターが会う人にもいろいろな人がいます。相談内容も多様で、つながり合う人や組織・機関・団体も様々です。

まず地域福祉コーディネーターに寄せられている相談内容がとても多様であることは、「相談内容編(令和6年度の主な相談)」を読んでもよく分かり、地域で起きている出来事や困りごとに、気づくことができます。多様なのは相談内容だけではないことに気づくこともできます。相談をしているのは、困っている本人だけではありません。皆さんは自分が困っているときに、自分から「私、困ってます」と言うことはできますか？実は、自分が困っていることを素直に「困っている」と伝えることは、内緒にしたい内容であればあるほど簡単ではありません。そこで相談に来る人は、「困っている」という人と一緒に暮らしている人や、友達から相談されて困ってしまった人、近所や職場にいる人が困っている様子に気づいた人、人から迷惑をかけられて困っている人、近所や台東区内で起きていることに不安や心配を感じている人、何かしたいことがある人、何かできる気がするけれどどうすればいいか分からない人など、様々な状態・立場の方々であることが分かります。1行から2行で短く説明されている「相談内容」には、一人ひとりが困ったり、何かしたいと思ったりしている「今」につながるストーリーがあることを忘れてはいけません。その一人ひとりがかけがえのない存在であり、どの人も地域で起きていることを地域福祉コーディネーターと共有し、一緒に考えて下さるととても大切な存在です。

「2 地域福祉の実践を記録したドキュメンタリー」には、各ブロックで地域福祉コーディネーターとつながった一人ひとりの人とのやり取りがかかれていますとともに、そこに至るストーリーが記されています。どのような理由で地域福祉コーディネーターとかかわるかは人によって異なりますが、どの人も「今」につながるストーリーを持っていることをより詳しく理解できると思います。

最後に、各ブロックの地域福祉コーディネーターの動きにも注目してみたいと思います。よく読んでみると、どのような状態や立場の方とかかわったとしても、すべてのコーディネーターに共通していることがあることに気づくことができます。それは、地域福祉コーディネーターとつながった「今」において、苦しい状態にあったり、弱い立場にあったり、不安を感じていたり、何かをしたい・力を発揮したいという気持ちを持っていたり、どのような状態・立場にあったとしても、地域福祉コーディネーターは一人ひとりの持っているストーリーを大切に、尊重しながら、ともにそこにいるということです。当然のことでありながら、簡単なことではありません。一人ひとりのストーリーを大切に、尊重しながらそこにかかわるすべての人とパートナーとしてつながるその姿勢こそ、社会の「今」に求められる専門職の姿ではないでしょうか。

制作総指揮 渡邊 大輔

監修 千ヶ崎 賀子

制作主任 小玉 周平

助監督 田島 麻美

ブランディングアドバイザー
合同会社グリップグループ

仲西 亮平

寺門 誠

スペシャルサンクス

地域みなさま

関係機関みなさま

アドバイザー

武蔵野大学教授 渡辺 裕一

監督 伊藤 慎哉



台東区

社会
福祉
協議会

© 2025 TAITO CITY COUNCIL OF SOCIAL WELFARE.

発行：2025年6月